

(款) 55教育費 (項) 20社会教育費 (目) 10文化財保護費

◎保護整備の経費

文化財保存・修理助成事業

文化財課

【総合計画上の位置づけ】

歴史を継承し、文化を創造するまち

歴史環境: 豊かな歴史的遺産が大切に保全され、伝統的な文化が保存・継承されているまち

【事業の目的】

対象 指定文化財の所有者等

意図 指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図り、後世に伝えるため。

効果 指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図る。

【事業の内容】

(1) 文化財保存・修理助成事業

- ・ 指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図るために必要な費用に対し補助を行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

文化財の保存修理(国・県指定文化財)(2-1-4-①)

文化財の保存修理(市指定文化財)(2-1-4-②)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
51,078	48,540	47,921		619
主な支出内訳				
・ 文化財保存・修理助成事業				
面掛行列保存育成事業補助金				60
鎌倉文化財防災連絡協議会事業補助金				3,866
鎌倉市郷土芸能保存協会育成事業補助金				147
国指定重要文化財木造阿弥陀如来及両脇侍立像保存修理事業補助金				779
国指定重要文化財建造物鶴岡八幡宮上宮保存修理事業補助金				23,011
国指定重要文化財紙本墨書新編仏法大明録保存修理事業補助金				848
国指定重要文化財円覚寺開山箆笥収納品保存修理事業補助金				3,672
国指定重要文化財建造物鶴岡八幡宮上宮防災施設事業補助金				4,807
国指定重要文化財建造物鶴岡八幡宮上宮環境保全事業補助金				1,694
国指定重要文化財断谿妙用・劔門妙深墨蹟保存修理事業補助金				337
県指定重要文化財英勝寺山門保存修理事業補助金				7,761
市指定文化財光明寺世代像保存修理事業補助金				939
市指定文化財緊急保存修理事業補助金				0

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 生涯-17 文化財保存・修理助成事業 □支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	170 文化財保存・修理助成事業							
		1254 文化財保存・修理助成事業							
主管課	文化財課	関連課	鎌倉国宝館、世界遺産登録推進担当						
分野名	歴史環境								
目標 (目標値)	指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図る。								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
運営資源 状 況	決算値	47,921千円	41,961千円	43,557千円					
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	47,921千円	41,961千円	43,557千円					
	人員配置数	1.0人	1.0人	1.5人					
	人 件 費	9,497千円	9,378千円	13,915千円					
事務事業 運営経費	協働の パートナー								
	総事業費	57,418千円	51,339千円	57,472千円					
	市民1人当 りの経費	325円	292円	328円					
対象者1人 当りの経費									
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
保存修理件数	◎	目標値	7件	7件	7件	7件	7件	7件	
		実績値	12件	8件					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)		
郷土芸能の公開	◎	目標値	2回	2回	2回	2回	6回	6回	
		実績値	2回	2回					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)									
団体名	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市
国・県指定文化財数	159	40	26	10	282	22	30	11	9
市町村指定文化財数	134	104	63	36	279	71	105	29	19
相模原市	三浦市	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	南足柄市	綾瀬市
23	13	12	10	4	25	8	1	9	1
32	19	33	40	31	36	23	31	34	11

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 国・県・市は重要な文化財を指定文化財に指定し、その修理費用の一部をそれぞれが補助して文化財の保護・保存を図っている。 指定文化財が増加するのに伴い修理要望も増加するが、厳しい財政状況の中では要望に応じきれず対応に苦慮している。 国主導のもと国指定文化財の保存修理が行われる中で、市の指定文化財の保存修理に係る経費の確保が難しい状況である。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 国・県指定文化財及び市指定文化財の腐朽等の状況を把握し、計画的に修理が行えるよう国・県・所有者と協議している。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 厳しい財政状況から市指定文化財の保存修理が困難な状況である。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 市指定文化財についても、特に緊急性の有無に配慮して調査を行い、所有者と協議の上計画的な保存修理を行う。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	指定文化財を後世に伝えていくためにも継続して実施していく必要がある。 計画期間内であっても、他に緊急的に修理を必要とするような場合がでてくるため、必要に応じて計画を見直していく必要がある。		
担当課長氏名:	中 里 一 男		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	文化財は国民共有の財産であり、良好な状態で後世に伝えていかなければならない。また、文化財を公開・活用していくためにも保存修理を継続して実施していく必要がある。		
担当部名	生涯学習部	部長名	金 川 剛 文